



# 福岡動物病院看護士学院

## Academy of Fukuoka Veterinary Technicians' Newspaper

学院生活情報誌 2009年 3月号

Vol. 48

発行  
第1700048

〒812-0027  
福岡市博多区下川端町 8-13  
電話 0120-391-700  
福岡動物病院看護士学院  
企画・編集部



3月

「レッドデータブック」

学院長 牧田登之

全世界で刻々と数を減らしている動物種がいて、レッドデータブックとかいって絶滅が危ぶまれる物を指示しては捕まえたり、飼ったり、輸出入してはいけないと規制されていることはよく知られている。いったい何頭あるは何匹、何羽に落ち込むともはや回復できないのだろう。勿論それは動物種や地域(環境)や、気候の変化など複雑な要因が関わっているに違いないし、数理統計的な考察も行われているが、何か納得できるような説明が聞かれない。アフリカの湖などに気持ちが悪くなるほど大集団をなしているペリカンや、洞窟の天井をびっしりと埋め尽くしているコウモリもいる。我が国でも餌付けして、一万羽を超える鶴が飛来する場所(鹿児島)があるかと思えば、精一杯保護しても年々減るばかり(山口)という場所もある。絶滅しかかっていたアホウドリやバッファロー(バイソン)の数を回復させた成功例もある。細々ながらトキや狼を他所から導入して絶えないように守っているところもある。

人間が獲物として獲りすぎたことや、化学物質の散布で環境を乱したなどと、明らかな原因が分かっているのはまだしも納得がゆく。しかし、どうしても増えないの理由は分からないことの方が多いようだ。人間の集団(人種、民族)でも保護政策の効果がなく、もう消滅してゆくしかないのかということがある。全体の数がある程度以上ないと、近親結婚が多くなって、遺伝子におかしくなるからという説ももっともな話ではある。進化や分化によって多様性が進む一方だから、退化したり絶滅する種もあっていいのさ、という説ももっともらしい。

こういう動物種の話に限らず、会社とか学校とか社会的な集団の成長と消滅でも、例えば昔からの超有名な会社も実は25年周期くらいで変わっているという説がある。カメラや時計のメーカーの主力商品が別の物になっていたりとか。話が飛びすぎるが私共の学校も刻々と変化してゆかないと、レッドデータ種になるかもしれないのである。

## 第三回卒業式



第三回福岡動物病院看護師学院卒業式を  
2009年3月6日(金)13時より執り行いました。

春の到来を少しずつ肌で感じられるようになってきた昨今、インコのりちゃんがさえずる中、3期生を晴れて社会へと送り出すことが出来ました。開校以来の少人数学年でしたが内容の濃い2年間となり、少数精鋭部隊と胸を張って送り出すことの出来る素晴らしい学生たちでした。学院長賞は松岡麻里さん(福智高等学校卒業)、皆勤賞は山下亜莉沙さん(佐賀県立鳥栖商業高等学校卒業)でした。

3期生入学当初から少人数ということで、これまでの学生が皆で分担していたところを広範囲で自分でしなければならなかったり、率先して行動すると負担が大きいのしかかってしまったりと、本来ならもう少し負担が軽くて済んだのかもしれませんが、大人数なら大人数の、少人数なら少人数の、それぞれの苦悩があるということを感じさせられます。自分を取り巻く環境が少しでも良い方だと思うのは当然ですが、理想的な環境に身を置くことが当たり前には叶う世の中ではありません。これから出会う環境に自分を失わずに順応すると言うと難しいことのように思えますが、周囲の人を認め、助け合うこと、簡単に諦めたり投げ出したりしないようにと学院長からのメッセージがありました。今はまだ、手にした資格や経験の意味を感じることは出来ないかもしれませんが、何年も先の未来では知らず知らずのうちにその経験が生きてきます。

これから「福岡動物病院看護師学院」のカラー(オーラ)を発揮して行くであろう卒業生たちが、胸を張って生きてゆくことを願います!



↓卒業生代表挨拶は我有俊哉くん。



御卒業おめでとうございます。

## 謝恩会

今年は謝恩会を学院で開催いたしました。手作り感満載な会場でしたが、例年以上の在校生の協力で華やかな謝恩会となりました。学院長の挨拶のもと“幸せの青いビール”といわれる「サムシングブルー」で乾杯、ビンゴゲームや思い出写真のスライドショー上映などを行いました。



## 日本小動物獣医師会発表のお知らせ

2009年度日本小動物獣医師会年次大会の発表準備をしています。

昨年7月20日東京で開催された発表会に当学院からは、樋口亮太君(佐賀大学卒業)が「先天性腎不全の病名で学院飼育犬となったラブラドルレトリバーの症状経過と病理解剖所見」について発表しました。今年度の発表会は7月19日から20日まで福岡国際会議場で開催され、当学院の生徒は会場案内の手伝いなどで大部分の生徒が参加する予定です。発表で参加する生徒は現在以下の三名を予定しています。

① 昨年の11月に大阪のグランキューブで開催された動物臨床医学会で簡易型尿中過酸化水素測定法のイヌ、ネコへの応用について現王園祐介君(鹿児島県立開陽高等学校卒業)が発表した同様の手法で、今回は市販されているヒト用の唾液中アミラーゼの活性値を測定することで、ストレスの指標となるか否かを吉原菜穂子さん(福岡大学卒業)が発表する予定です。

② 同じく高倉広和君(九州工業大学卒業)が発表した電子負荷療法のイヌ、ネコへの応用と同様の手法を用いて、今回はドイツ製のエアナジープラスという機械で作成した抗酸化水を飲ませたり、あるいは抗酸化水蒸気を吸引させたときにストレスの軽減効果があるか否かを尿中の過酸化水素測定法で測定した結果を土肥和徳君(創成館高等学校卒業)が発表する予定です。③ もう一人は上野彰子さん(福岡雙葉学園高等学校卒業)が春休みの病院実習で、沖縄のながみねどうぶつクリニックに行く予定ですが、その病院は天然記念物の「ヤンバルクイナ」を保護飼育している病院としても有名なので、病院実習を通して「ヤンバルクイナ」の特性や問題点、怪我の治療法などを具体的に報告する予定です。



### 不況に強い!?

ペットにかかる年間支出、不況下でも20%増加!

全国のモニターを対象に「ペットにかかる年間費用について」という調査を行ったアニコム損害保険によると、2008年と2009年を比較すると犬猫ともに年間支出が前年を20%以上も増加していることが分かった。特に「病気やケガの治療費」や「フード・おやつ」に関する費用が大幅に増加傾向にある。年間の平均合計支出は、犬が24万8000円、猫が12万8000円とかなりの高額で、いずれも約20%の増加となっている。

また、ペットの「健康と食」に対する意識も高まりを見せており、「病気やケガの治療費」「ワクチン・健康診断等の予防費」「シャンプー・カット・トリミング費」など、健康に関連する費用について上昇傾向が見られる。治療費については年間5万円を超える出費をした飼い主の割合が全体の10%から18%に増加している。



初めての病院実習を体験してみて、自分で想像していた病院と実際に行ってみたら病院とは印象が全然違う事が一番最初に感じたことです。まず、朝の最初の仕事は清掃から始まり、先生の指示で入院しているペット達のレントゲンを撮る手伝いをしたり、餌をあげたりします。その合間に先生に色々聞いたり、働いている看護師の方から看護師の仕事のことを聞いたりしました。学校では学べないような話もいっぱい聞けて、すごく勉強になっています。病院実習が始まる前の日は緊張しすぎて寝れなかったりしましたが、いざ行ってみると先生も看護師の方もすごく優しく、いろいろ教えてくれて行って良かったとすごく思いました。まだ実習は始まったばかりですが、これから、もっとたくさん人の話を聞いたり見たりする中で多くのことを学び、自分自身を成長させて、4月から2年生として学生生活最後の一年間を過ごしていきたいです。



動物看護師の  
甲たち

特別編



現王園 祐介

鹿児島県立開陽  
高等学校卒業

〜 研修に行ってみて〜

## プロフェッショナルトリマーC級 ライセンス資格試験

2年間の締めとなる最後の講義(後期期末試験最終日)は、例年の如くトリマー資格取得試験が行われました。

結果は、全員基準を満たし「合格」。ほっと胸をなで下ろしましたが、試験に臨むに当たって「これで最後」「資格試験」という意気込みが強すぎたのか、時間配分を間違えたりいつも出来ているところがおろそかになったりと、「普段はもっと出来るのに出来なかった」という部分が多々見られたようです。この資格取得はこれから先の未来への通過点に過ぎません。現状に満足せず、切磋琢磨して自分を伸ばして行って欲しいと願います。



九州電力&JR九州主催の「住んでeco乗ってeco」というイベントに、学院飼育ペンギンも「CO<sub>2</sub>を増やさないで」「僕たちの命は自然環境に大きく左右されます！」というメッセージジャーとしてボランティア参加を致しました。



ストップ・ザ・温暖化



## 里親が見つかりました。



昨年6月に学院前で交通事故にあったと思われる仔猫を保護して早10ヶ月が経ちました。2ヶ月ほどでむき出しになっていた足の骨も、傷が何処だったか分からないくらい綺麗に回復しました。それから里親探しに乗り出すもなかなか引取先が決まらず、また学院猫との折り合いも悪いので学院猫舎にも入れず、学生食堂ですくすく(ぬくぬく?)過ごしていました。今年初めに特別実習で避妊手術も終え、この先どう飼っていくべきかと検討していたところ、ペット可アパートに越して、受け入れ準備万端の4期生、堤成美さん(福岡県立八女農業高等学校卒業)が里親に名乗り出てくれました。名前も「堤ミケ」に決定。在学中は堤成美さんと共に学校に通うそうで、別れが来ると思っていた学院にとってもなんだか嬉しく、これからも見守っていきたいと思っています。これまで三毛猫の行く末をご心配いただいた皆様に紙面ではございますがお礼申し上げます。

## 編集後記

4周年の最終号で48号となりました。まだ二寒四温とも言いかねる時候ですが、日本も南北の差が大きいのので、地域的には梅と桜が同時開花しているようで、確かに冬は去ったといえます。学院も2月の第3週に期末テストを終え、春休みに入っています。3月6日には卒業式が執り行われました。今年度の卒業生の学院長賞は松岡麻里さん、二年間の皆勤賞は山下亜莉沙さん、答辞は我有俊哉君でした。その卒業式の前後には看護学会や日本小動物獣医師会の動物看護師認定試験です。昨年同様に全員合格が期待されていますが、今春の卒業生は当学院の歴史上最少人数ですので、1人不合格でも何割とか何%のマイナスになってしまうので、その替わり、全員合格も充分あり得るのです。一年生も年度末にかけて、最初の病院実習を控えています。中にはヤマネコや野鳥の観察や野生動物の手当の研究に出かける生徒もいます。来月号にはそれらの体験記が本誌を飾ることになるでしょうからどうぞお楽しみに。

福岡動物病院看護士学院 広報課

## オープンキャンパス開催

3月25日(水) 13:00~

講師 権田辰夫 副学院長

「神経による調節」

3月26日(木) 13:00~

講師 権田辰夫 副学院長

「内分泌による調節」

楽しいヨ~



etc...

福岡動物病院看護士学院0120-391-700